

平成 21 年 度

名古屋大学大学院国際言語文化研究科
博士課程（前期課程）

学生募集要項

名古屋大学大学院
国際言語文化研究科

国際言語文化研究科の目的は、「国際言語文化学における学術の理論及び応用を教授研究し、その深奥を究め、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及び卓越した能力を培うことにより、文化の進展に寄与するとともに、国際言語文化学における学術の研究者、高度の専門技術者及び教授者を養成すること」（「名古屋大学大学院国際言語文化研究科規程」第2条）にある。国際言語文化研究科は、この目的を実現するための入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）として、国際言語文化に関する「基礎理解力」とともに「応用力」と「実践力」などの能力を評価する試験を行うことにより、入学者を選抜する。

平成21年度本学大学院国際言語文化研究科〔博士課程（前期課程）〕に入学を希望する学生を下記の要項により募集する。

1. 出 願 資 格

次の各号のいずれかに該当する者

- (1) 大学を卒業した者、又は平成21（2009）年3月卒業見込みの者
- (2) 国立学校設置法に規定する大学評価・学位授与機構において学士の学位を授与された者及び短期大学・高等専門学校で専攻科を平成21年3月までに修了見込みであり、かつ、同月までに大学評価・学位授与機構から学士の学位が授与される見込みである者
- (3) 外国において学校教育における16年の課程を修了した者及び平成21年3月までに修了見込みの者
- (4) 外国の学校が行う通信教育における授業科目を我が国において履修することにより、当該外国の学校教育における16年の課程を修了した者又は平成21年3月までに修了見込みの者
- (5) 我が国において、外国の大学の課程（その修了者が当該外国の学校教育における16年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了した者又は平成21年3月までに修了見込みの者
- (6) 専修学校の専門課程（修業年限が4年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る。）で文部科学大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者及び平成21年3月31日までに修了見込みの者
- (7) 文部科学大臣の指定した者（昭和28年文部省告示第5号）
- (8) 平成21年3月をもって大学に3年以上在学し、又は外国において学校教育における15年の課程若しくは我が国において外国の大学の課程（その修了者が学校教育における15年の課程を修了したとされるものに限る。）を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を修了し、本研究科が、所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者（ただし、上記資格1該当者は除く）
- (9) 本研究科において、個別の入学資格審査により、大学を卒業した者と同等以上の学力があると認められた者で、平成21年3月31日までに22歳に達する者

注）出願資格(8)、(9)の適用を受けようとする者については、出願に先立って、個別の入学資格審査を行うので、あらかじめ本研究科事務室に照会の上、平成20年7月18日（金）までに所定の申請書類を提出すること。

2. 募 集 人 員

日本語文化専攻 20名（うち社会人特別選抜及び高度専門職業人コース若干名）

講座別内訳：日本語文化学 約4名、比較日本文学 約4名、日本語教育学 約4名、応用言語学 約4名、現代日本語学 約2名、日本語教育方法論 約2名

国際多元文化専攻 28名（うちメディアプロフェッショナルコース約7名、

社会人特別選抜及び高度専門職業人コース若干名）

3. 願書受付期間

平成20年8月18日(月)から平成20年8月22日(金)まで。

受付時間は、午前9時から午後4時まで。

郵送する場合は、封筒の表に「大学院博士前期課程入学願書在中」と朱書し、書留郵便で郵送すること。8月22日(金)午後4時までに到着したものに限り受け付ける。

4. 出願書類等

入学志願者は、次の書類等を取りそろえて、下記(1)に提出すること。

(1) 入学志願票

本研究科所定の用紙に記入したもの。

(2) 卒業証明書又は出願資格を証明する書類

(3) 成績証明書

出身大学長又は学部長が作成し厳封したもの。

(4) 研究計画書等

a) 一般選抜

A 4判の用紙に、「入学後の研究計画」及び「その研究計画と出身大学(学部)で受けた教育内容との関連」について、日本語文化専攻は2,000字以内、国際多元文化専攻は2,000字以上4,000字以内で記述すること。

b) 社会人特別選抜(企業及び学校等で2年以上正規の職員として継続して勤務している者で、在職のまま入学しようとする者)

A 4判の用紙に、2,000字前後で「志望の動機と志望分野の知識」について記述すること。

c) 高度専門職業人コース

A 4判の用紙に、「出身大学(学部)で受けた教育内容」と「入学後の研究計画」について、3,000字以内で記述すること。

(5) 所属長の承諾書(社会人特別選抜による志願者のみ提出)

本研究科所定の用紙に、在職のまま就学することを承諾する旨を記載した当該所属長の承諾書。

(6) 入学検定料 30,000円

郵送の場合は、郵便局において30,000円の郵便普通為替を作成し、指定受取人欄は記入しないで提出すること。なお、国費外国人留学生は検定料を必要としない。また、他大学から受験する国費外国人留学生は、国費外国人留学生である証明書を提出すること。

(7) 領収証書・領収証書(控)(本研究科交付の所定用紙により、氏名のみ記入のこと)

(8) 返信用封筒 2通(受験票送付用、連絡用)

本研究科所定の封筒に出願者本人の受信場所、郵便番号、氏名を明記すること。受験票送付用封筒には350円切手を貼付し、連絡用封筒は切手を貼付せずに提出すること。

(9) 宛名シール

(10) 登録原票記載事項証明書(ただし、提出できない場合は、本研究科に問い合わせること。なお、日本国籍を有する者及び日本国永住許可を得ている者は不要。)

(11) 出願書類等の提出先

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B4-5(700) 名古屋大学大学院国際言語文化研究科入試担当
TEL (052) 789-4881 (直通)

5. 選抜方法等

選抜は、一般選抜、社会人特別選抜及び高度専門職業人コースに分けて行う。

メディアプロフェッショナルコースの選抜は、国際多元文化専攻の他講座と同様に一般選抜と社会人特別選抜に分けて実施する。

一般選抜は、一般学生、帰国子女、外国人留学生、社会人等を対象に実施する。

社会人特別選抜は、企業及び学校等で2年以上正規の職員として継続して勤務している者で、在職のまま入学しようとする者を対象に実施する。

(1) 一般選抜

学力検査は、筆記試験及び口述試験により行う。

日本語文化専攻の口述試験は筆記試験合格者を対象とする。

筆記試験合格者の発表：9月18日(木) 8:30、国際言語文化研究科棟玄関

① 筆記試験

専攻	月日	時間	試験科目及び内容
日本語文化専攻	9月17日(水)	9:30~11:30	〔論述試験〕 日本語文化学、比較日本文化学、日本語教育学、応用言語学、現代日本語学、日本語教育方法論の研究遂行のための基礎学力を試験する。日本語で解答すること。
		13:00~14:30	〔外国語筆記試験〕 日本語文化学講座 比較日本文化学講座 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語を選択すること。
			日本語教育学講座 応用言語学講座 現代日本語学講座 日本語教育方法論講座 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、母語を除く1外国語を選択すること。
国際多元文化専攻	9月17日(水)	9:30~11:30	〔論述試験〕 多元文化論、先端文化論、南北アメリカ言語文化、東アジア言語文化、ヨーロッパ言語文化、ジェンダー論、メディアプロフェッショナル論の研究遂行のための基礎学力を試験する。日本語で解答すること。
		13:00~14:30	〔外国語筆記試験〕 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語。

注1) 日本国永住許可を得ている外国人は、一般学生と同様の扱いとする。

注2) 日本語文化学講座あるいは比較日本文化学講座を第1志望として受験するものは、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座を第2志望とすることはできない。また、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座のいずれかを第1志望として受験するものは、日本語文化学講座・比較日本文化学講座を第2志望とすることはできない。

② 口述試験

専攻	月 日	試験時間
日本語文化専攻	9月18日(木)	9月18日(木)の筆記試験合格者発表時に時間を指定する。
国際多元文化専攻		9月17日(水) 8:30に時間を指定する。

③ 試験場所

筆記試験：名古屋大学全学教育棟A館

口述試験：名古屋大学全学教育棟A館または国際言語文化研究科棟

(2) 社会人特別選抜

① 外国語試験

専攻	月 日	時間	試験科目及び内容
日本語文化専攻	9月17日(水)	13:00~14:30	[外国語筆記試験] 日本語文化学講座 比較日本文化学講座 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語を選択すること。
			日本語教育学講座 応用言語学講座 現代日本語学講座 日本語教育方法論講座 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、母語を除く1外国語を選択すること。
国際多元文化専攻	9月17日(水)	13:00~14:30	[外国語筆記試験] 英語、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、朝鮮・韓国語の中から1外国語を選択すること。 ただし、外国人留学生の場合は、日本語。

② 口述試験

専攻	月 日	試験時間
日本語文化専攻 国際多元文化専攻	9月18日(木)	別途文書で時間を指定する。

③ 試験場所

外国語試験：名古屋大学全学教育棟A館

口述試験：名古屋大学全学教育棟A館または国際言語文化研究科棟

(3) 高度専門職業人コース

① 英語試験

専攻	月日	時間	試験科目
日本語文化専攻 国際多元文化専攻	9月17日(水)	13:00~14:30	英語筆記試験

② 口述試験

専攻	月日	試験時間
日本語文化専攻 国際多元文化専攻	9月18日(木)	別途文書で時間を指定する。

③ 試験場所

英語試験：名古屋大学全学教育棟A館

口述試験：名古屋大学全学教育棟A館または国際言語文化研究科棟

(4) 配点表

専攻等	一般選抜		社会人特別選抜		高度専門職業人コース	
	科目名	配点	科目名	配点	科目名	配点
日本語文化専攻	論述試験	200	—	—	—	—
	外国語試験	100	外国語試験	100	英語試験	150
	口述試験	200	口述試験	200	口述試験	150
国際多元文化専攻 (メディアプロフェッショナルコース除く)	論述試験	100	—	—	—	—
	外国語試験	150	外国語試験	150	英語試験	150
	口述試験	100	口述試験	100	口述試験	150
国際多元文化専攻 メディアプロフェッショナルコース	論述試験	100	—	—	—	—
	外国語試験	150	外国語試験	150	—	—
	口述試験	100	口述試験	100	—	—

6. 合格発表

平成20年9月19日(金)17:00頃に、国際言語文化研究科棟玄関に掲示発表する。

なお、郵送により本人にも通知する。

7. 入学手続

手続日は、合格者に対し文書により通知する。

8. 入学料及び授業料

入 学 料	282,000 円
授 業 料	前期分 267,900 円
	(年額 535,800 円)

(注1) 授業料の納入については、希望により前期分納入の際に後期分も併せて納入することができる。

(注2) 入学時及び在学中に学生納入金の改定が行われた場合には、改定時から新たな納入金額が適用される。

9. そ の 他

- (1) 納入した入学検定料は、いかなる理由があっても返還しない。
- (2) 試験場へは、試験開始15分前に到着し係員の指示を受けること。
- (3) 論述試験、外国語筆記試験の試験開始時刻に遅刻した場合は、試験開始時刻後30分以内に限り、受験を認める。
- (4) 名古屋大学においては、構内への車両の入構規制を実施しているので、受験の際は、公共交通機関を利用すること。
- (5) 過去5年分の志願者数、受験者数、合格者数は、名古屋大学大学院国際言語文化研究科ホームページ (<http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/>) に記載されている。
- (6) 過去の入試問題は、文系総合館1F 文系教務課(国際言語文化研究科窓口)で閲覧可能(コピー不可)。
- (7) 個人情報の取扱いについて
出願にあたって提供された氏名、住所その他個人情報は、入学者選抜、合格発表、入学手続き及び入学後の学務業務における学籍・成績管理を行うために利用する。
取得した個人情報は適切に管理し、利用目的以外には使用しない。

国際言語文化研究科の概要

国際言語文化研究科は、今日の国際化社会が抱える諸問題に対処するために、日本及び世界の諸地域の言語文化を国際的視野から捉え直し、言語と文化の研究に新領域を開拓するとともに、実践的語学力の育成を重視した教育を行うことにより、来るべき新時代のリーダーたり得る国際人としての高度な専門家の養成をその設置目的とするものである。

日本言語文化専攻は日本文化、日本語教育、日本語学の研鑽を基礎とし、実践的語学力を身につけ、国際的な広い視野、深い洞察力を備えた日本文化学の専門家、指導的な日本語教育者及び日本語学の研究者の養成を目指すものである。

国際多元文化専攻は、既存のアカデミズムを横断する言語文化の諸問題と世界の諸地域に新たに生成しつつある文化に関する研鑽を礎石とし、実践的語学力を身につけ、国際理解と国際協調に貢献しうる高度専門職業人、研究者の養成を目指すものである。

本研究科は、留学生及び在外教育施設で教育を受けて帰国した学生を積極的に受け入れるとともに、昼夜開講制により、企業及び中等教育機関から派遣された者に対するリカレント教育も行う。

また、入学時にすでに優れた学力を有し、博士前期課程の修了要件を短期間に優れた成績で満たした者に関しては、在学1年で修士の学位を授与する措置をとることがある。(大学院設置基準第16条のただし書き条項の適用)

なお、課程修了者には、修士(文学あるいは学術)の学位が授与される。

講座及びその内容

1. 日本語文化専攻

講座名	内 容
日本語文化学	日本語文化に関わる諸事象を異文化接触の観点から共時的・通時的に分析し、その個性と普遍性を究明していく方法論を確立するとともに、学際的分野として、現代の国際社会の変化に対応できる日本語文化学の構築を目指す。
比較日本文化学	日本文化を異文化との比較対照によって研究する。様々な文化現象の背景に存在する普遍的な様相を明らかにするとともに、文化的固有性の生成・発展過程や相互的影響関係などを歴史的に考察する視点を養う。「比較」という方法のもつ豊かな可能性を実践的に認識することを目指す。
日本語教育学	日本語教育学原論を中心に置き、教育の素材となる日本語そのものを運用及び構造の二側面から追求する。また、様々な日本語教授法の背景をなす理論、日本語習得に関わる種々の要因を検討し、理論面、実践面から日本語教育のあり方を追求していく。
応用言語学	日本語研究に関する実践的な理論や方法論のあり方を、対照言語学、社会言語学、心理言語学、言語習得論、統計学等の成果を踏まえて追求する。また、言語分析と言語教育・言語学習との有機的な関連付けを重視し、日本語教育の実践に確固とした理論的基盤を与える。
現代日本語学	講義及び演習を通して、現代日本語の音声学・文法論・意味論（認知意味論・形式意味論）・語用論等、日本語学の主要分野の必須項目・研究方法を体系的に習得し、独創的な日本語研究を行うための高度な能力を養うことを目指す。
日本語教育方法論	日本語教育において、コンピュータ支援を含め、多様な学習者のニーズに応じた教育内容、教育活動、その評価のあり方を、実際の教育現場で収集された資料に基づき追求する。

2. 国際多元文化専攻

講座名	内 容
多元文化論	世界の諸地域における多文化社会を、階級・民族・人種・性差、あるいは個と普遍性の問題などの視点から多角的に捉え、異文化の共生を理解・促進するための理論的基盤を構築する。
先端文化論	世界の諸地域に新たに生じつつある先端的文化の諸相を言語文化的視点から捉え、新しい社会に対応できる新たな世界認識を確立するとともに、時代と文化形成との関連に関する理論的基盤を構築する。
南北アメリカ言語文化	南北アメリカ大陸における言語文化の諸相を現代社会の中に捉え、民族・人種・宗教・環境等の諸問題に対する現実的な文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明する。
東アジア言語文化	東アジア諸地域における言語文化の諸相を現代社会の中に捉え、中国、韓国・朝鮮、ロシアの言語文化の基層構造を検証し、それに関わる諸問題に対する現実的な文化理論を構築するとともに、実践的な方策を究明する。
ヨーロッパ言語文化	ヨーロッパ地域における社会、言語文化、あるいは文化間の接触・共存のあり方を共時的・通時的に分析し、そこで生じる諸課題への対応策を探るとともに、一般的な社会理論・文化理論の構築を目指す。
ジェンダー論	フェミニズム、ジェンダー、セクシュアリティに関する研究を基盤として、文学、文化、社会、経済における事象と表象を批評的・学際的に検証する。それを通じて、社会の既成概念にとらわれない人材育成、また研究成果の社会的還元を目指す。

3. 国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース

コース名	内 容
メディアプロフェッショナルコース	高度情報化社会の先端で、メディアはいま何に挑み、どう課題を克服しつつあるか。新聞、テレビをはじめ、インターネット、情報技術、広告、広報活動などの現場で奮闘中の多彩な企業人を教授陣として、即戦力となる人材を養成する。

高度専門職業人コース

1. 高度専門職業人コースは、平成15年度より新たに国際言語文化研究科に設置されたコースであり、高度の専門的資質を有する職業人を養成するためのプログラムである。このコースは、異文化に精通し外国語（特に英語）に堪能であり、国際的視野にたつて地域に貢献する人材を養成することを目的とする。対象となるのは、一般の学生のほかに、在職のまま就学する社会人、中等教育機関の教員などが含まれる。

なお、このコースは、日本国籍を有する者、及び日本国永住許可を得ている者を対象とする。

2. 入学者は、個別の講座ではなく、各専攻に所属する。

3. このコースでは、30単位以上を修得し、かつ、研究指導を受け、修士論文を提出し、審査及び口述試験に合格しなければならない。この場合において、30単位の中には、高度専門職業人コースの授業科目のA類、B類、C類、D類からそれぞれ4単位以上（計16単位以上）、また所属する各専攻の専門科目から14単位以上の単位が含まれている必要がある。

志願票記入上の注意

【全ての志願者】

志願票下部の注意をよく読んで記入すること。特に履歴の欄は、高等学校卒業以後の入学年月・卒業修了年月、就職年月、離職年月を1行ずつ記入し、できるだけ空白期間のないようにすること。

【日本語文化専攻志願者】

日本語文化学講座あるいは比較日本文化学講座を第1志望として受験するものは、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座を第2志望とすることはできない。

また、日本語教育学講座・応用言語学講座・現代日本語学講座・日本語教育方法論講座のいずれかを第1志望として受験するものは、日本語文化学講座・比較日本文化学講座を第2志望とすることはできない。

【国際多元文化専攻志願者】

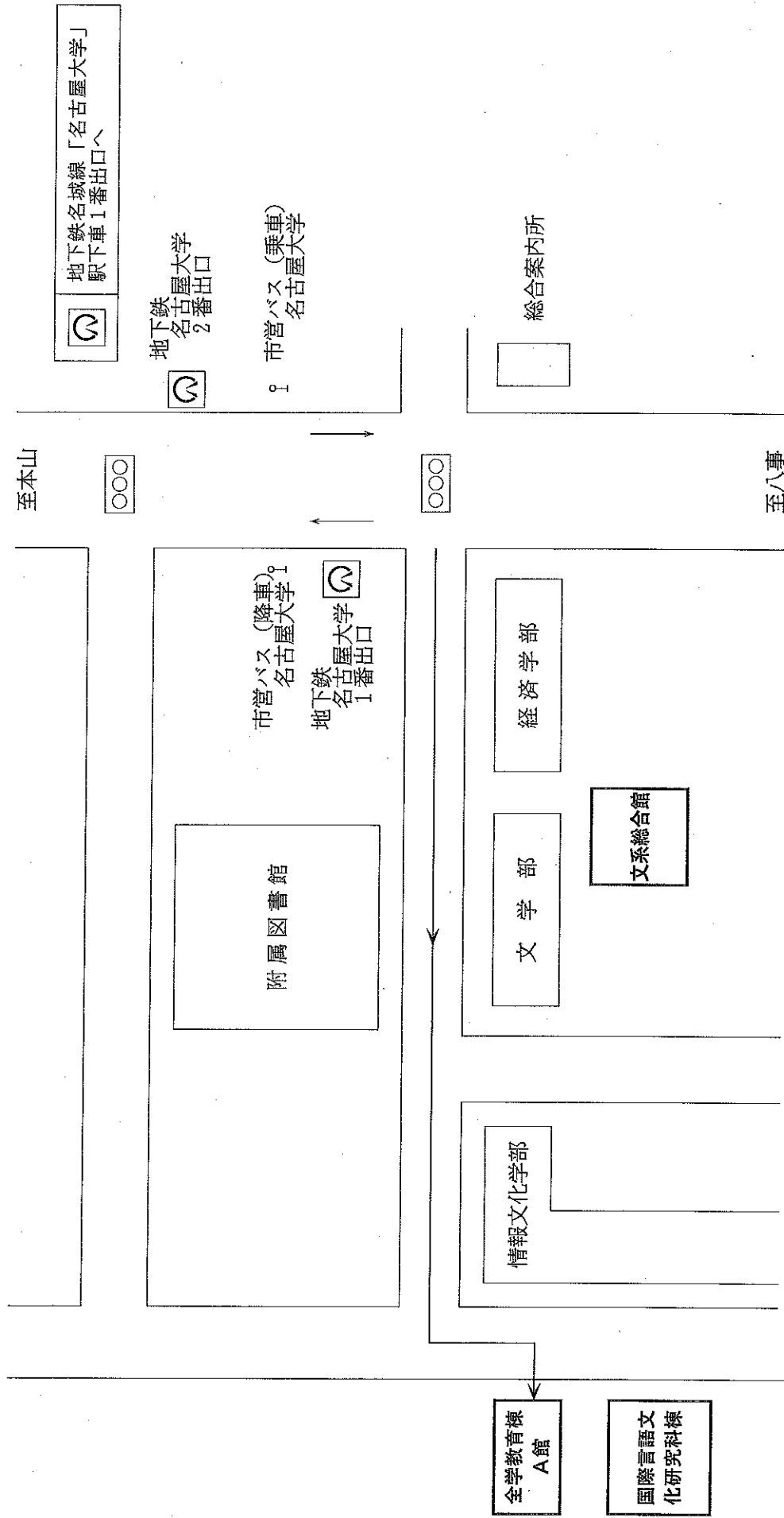
第2志望として国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコースを選択することができる。

【国際多元文化専攻メディアプロフェッショナルコース志願者】

- (1) 一般選抜、社会人特別選抜の欄は、該当する出願資格により○印で囲むこと。
- (2) 「志望講座名」欄の記載は国際多元文化専攻の「第1志望講座名」欄に「メディアプロフェッショナルコース」と記入する。なお、第2志望として国際多元文化専攻の他講座を選択することができる。

【高度専門職業人コース志願者】

- (1) 一般選抜、社会人特別選抜の欄は○印で囲む必要はない。
- (2) 志望する専攻の第1志望講座名の欄に「高度専門職業人コース」と記入すること。
- (3) 一般選抜及び社会人特別選抜との併願はできない。(第2志望の講座名の欄は記入しないこと。)



名古屋大学大学院国際言語文化研究科日本語文化専攻 指導可能領域

〔日本語文化学講座〕

日欧比較文化論、異文化コミュニケーション、比較文学・比較文化、文化史、医学史、近現代日本文学、詩、アニメーション、その他文化関連領域

〔比較日本文化学講座〕

比較文学・比較文化、文化史、女子教育史、比較演劇論、比較児童文学及び文化、在日朝鮮人文学、平安文学、比較婚姻・家族史

〔日本語教育学講座〕

日本語教授法、言語教授法一般、第2言語としての日本語習得研究、中間言語語用論、談話分析・会話分析、現代日本語の意味・文法研究、日本語の誤用分析、日本語と他言語の対照研究、日本語の文法教育

〔応用言語学講座〕

日本語と他言語の対照研究、現代日本語の統語論、意味論、文法化理論、心理言語学、社会言語学、日本語の話し言葉についての研究

〔現代日本語学講座〕

音声学、日本語音声教育、意味論（意味論一般、形式意味論、認知意味論を含む）、認知言語学、文法論、日韓対照研究

〔日本語教育方法論講座〕

日本語教育方法論、日本語教育教材論、日本語教育評価論、第二言語運用論、外国人児童の言語習得研究、接触会話の研究、地域日本語教育の研究、コンピュータ支援教育方法論、日本語CALL教材開発

平成 20 年 7 月

名古屋大学大学院国際言語文化研究科

〒464-8601 名古屋市千種区不老町 B 4 - 5 (700)

電話 (052) 789 - 4881 (直通)

[http:// www.lang.nagoya-u.ac.jp/](http://www.lang.nagoya-u.ac.jp/)